



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3958 号 2017.10.15 発行

新商品続々、高級紙おむつ人気 少子化や晩婚化背景 神戸新聞 2017年10月15日
 高級紙おむつの売り場面積が増えている「アカチャンホンポ アクタ西宮店」＝西宮市北口町

肌触りや吸水性にこだわった乳幼児用「高級紙おむつ」の市場が盛況だ。兵庫県明石市二見町南二見に工場があるP&Gジャパン（本社・神戸市）は今夏、高級紙おむつのシリーズを一新した。他社も「オーガニックコットン配合」「マシュマロ仕立て」などをうたう新商品を次々と販売。少子化や共働き、晩婚化などを背景にした高品質志向が高まっているとみて、小売店でも売り場面積を拡大している。（中島摩子）



P&Gは8月下旬、高級紙おむつシリーズ「パンパースのはじめての肌へのいちばん（肌いち）」のリニューアルに伴い、明石工場を報道関係者らに初公開。国内で流通するパンパース商品は全て同工場で製造していると、“メイドイン明石”をアピールした。

肌いちの研究開発担当、梅尾貴士さん（43）は「日本人は特に『柔らかさ』を求めており、肌触りにこだわった。おしりに触れる3D構造のメッシュシートに2千個の穴を開け、おしっこやうんちを素早く吸収できるようにした」と高品質を強調した。

同社は約5年前、肌いちのテープタイプを発売し、昨春にはパンツも登場させた。このシリーズは、通常のパンパースよりも1枚につき5～7円高いが、広報担当の今瀬友佳さん（36）は「大好評で売り上げが伸びている。少子化で紙おむつ市場の縮小が予想される中、どう維持するのかという問いへの答えが、プレミアム商品だ」と話す。

◇

「共働きの増加や少子化で、子ども1人当たりにかかるお金が増えている」と話すのは、ユニ・チャーム（東京都）の担当者。同社がオーガニックコットンを配合した高級紙おむつ「ナチュラルムーニー」は「計画以上の売れ行き」。大王製紙（同）も今春、「グ〜ン はじめての肌着 マシュマロ仕立て」の店頭販売を始め、王子ネピア（同）も高付加価値をPRする「ホワイト」を10月から全国で売り出した。

高級志向の高まりに伴い小売店では「高級紙おむつの売り場は、全体の10%から25%ぐらいになった」（赤ちゃん本舗）。9カ月の長女と西宮市のアカチャンホンポ アクタ西宮店に訪れた同市の母親（37）は「子どもが気持ち悪いと感じることを一つでもなくせるのなら、少しでも良いものを選びたい」と話す。

高級志向に加え、紙おむつ使用量の増加から、市場全体も拡大している。紙おむつを外す時期を「急がず、それぞれのペースで」と考える親が以前より増えているといい、日本衛生材料工業連合会（東京）の担当者は「子ども1人が使う紙おむつの量が増えている」と話す。

同連合会によると、2015年、国内流通用に生産された主要メーカー5社の紙おむつ生産量は、中国人観光客による“爆買い”の影響もあり約147億枚に。16年には大量買いが落ち着いたが約139億枚と高水準を保っている。

希望号「交流深めて」 水戸で結団式 障害者と来月旅行 茨城新聞 2017年10月15日



車いすの扱い方を学ぶボランティア=水戸市笠原町
障害のある人たちに旅行を楽しんでもらう
「第17回希望号」(茨城新聞社、茨城新聞文化福祉事業団主催)の結団式が14日、水戸市笠原町の県開発公社ビル会議室で開かれ、団長を務める小田部卓茨城新聞社長は「楽しい思い出をつくり、交流を深めてもらいたい」と集まった参加者らに呼び掛けた。
参加者らは旅行内容の説明を受けた後、班ごとに参加者の自己紹介などを行った。また、ボランティア研修会も開かれ、参加するボラ

ンティアやスタッフらが2人一組で車いすの扱い方や、アイマスクを装着しての歩行などを体験。障害者への接し方や基礎知識などを学んだ。

今回の希望号には茨城キリスト教大学の学生4人も参加する。同大3年の富岡幸恵さん(20)は「皆が旅行を楽しめるよう頑張りたい」と意気込んだ。希望号は11月18日から2泊3日の日程で、長野県の善光寺や岐阜県の白川郷などを訪れる。119人が参加予定。

災害「要配慮者」救済へ 県内 周知や人手不足なお課題 福祉避難所の指定増加



茨城新聞 2017年10月15日
結城特別支援学校で行われた避難所の開設訓練。要配慮者には特別教室が割り当てられる=結城市鹿窪、2016年10月27日
災害時に障害者や高齢者らの「要配慮者」が避難生活を送る福祉避難所の指定が、県内で進んでいる。県福祉指導課によると、4月1日現在で指定を受けたのは387カ所。福祉施設や特別支援学校などで、昨年から42カ所増えた。ただ福祉避難所を巡っては、存在の周知やマンパワーの不足、一般避難所開設後の二次的な開設であることなど、

実効性に課題がある。(古河支局・小原瑛平)

■遠慮

福祉避難所は、一般避難所の開設後、福祉避難所を必要とする要配慮者が多くいると自治体職員が判断すれば、開設される。避難所内では、専門のケアが受けられることになっている。

ただ災害時のスムーズな開設は難しい。2016年4月の熊本地震では、専門知識を持つスタッフや施設スペースが不足し、福祉避難所への受け入れが難航した。また健常者が福祉避難所に殺到し、結果的に要配慮者が追いやられてしまうケースもあったという。

課題は「避難への遠慮」もある。自身も身体障害があり、バリアフリーを研究する県地方自治研究センター研究員の有賀絵理さんによると、例えば身体障害者では、車いすが多くのスペースを必要とするため、家族や本人が一般避難所に行くこと自体に遠慮してしまう

ことがある。

知的障害者のいる家族では、慣れない避難所の環境で本人が精神的に不安定になったり騒いだりしてしまう恐れがあることから、周囲に迷惑を掛けたくない、避難を最初から諦める人も多い。有賀さんは「熊本地震では、障害者と家族が車の中や自宅でそのまま過ごしたケースもあった」と明かす。

■併設型

避難所への避難を遠慮したり諦めたりする人が増えれば「要配慮者が少なく、福祉避難所は必要ない」と判断される懸念がある。エコノミークラス症候群や家が崩れるなど二次的な被災の危険もある。

こうした状況を防ごうと、県立結城特別支援学校は同年3月、市と覚書を交わし、一般・福祉の併設型避難所となった。要配慮者を特別教室、一般の避難者を体育館と分け、福祉避難所を即時に立ち上げるのが特徴だ。

同校が併設型避難所になることを決めた背景には、2015年9月の関東・東北豪雨で要配慮者の受け皿になれなかった反省がある。豪雨後に同校が保護者に実施したアンケートでは、「障害児を抱えての避難所(生活)には抵抗があった」「子どもが大勢の人と一緒に過ごすことができないので避難しなかった」などの声があった。

■最重度

知的障害のある長男を同校に通わせる父親は「水害時、避難所では息子がパニックを起こし迷惑を掛けてしまうと思い、家の2階にとどまった」と明かす。父親は最初から福祉避難所に避難できれるのなら安心できるといい、「全国に併設型が広がってほしい」と望む。有賀さんは「行政も福祉避難所の課題を理解しているが、どこから手を付けていいかわからない状況」と指摘。その上で『最重度』の障害者への支援をどうするか考えれば、ほかの障害者や高齢者、外国人などもカバーできる福祉避難所になる」と提唱する。

要配慮者が避難せず命の危険にさらされる状況とならないよう、社会全体で実効性ある開設を模索する必要がある。

★福祉避難所

災害時に一般の避難所で生活することが難しい高齢者や障害者、妊産婦や乳幼児など「要配慮者」のために市町村が開設を要請する二次的な避難所。バリアフリーなどの配慮が必要となる。内閣府によると、2016年10月1日現在、全国1572自治体が計2万185カ所の福祉避難所を指定または確保している。

小規模、分散で21年度開設 新やまゆり園基本構想 共同通信 2017年10月14日

神奈川県は14日、昨年7月に相模原殺傷事件が起きた障害者施設「津久井やまゆり園」の再生基本構想を発表した。相模原市の現在地と、利用者が仮移転している横浜市の「芹が谷園舎」周辺の2カ所に小規模施設を整備。既存の県立施設も活用して全利用者130人分の居室を確保し、2021年度に開設するとしている。

黒岩祐治知事は同日、芹が谷園舎で開いた利用者の家族会や施設職員らへの説明会で「罪もなく奪われた生活の場は責任を持って守り抜く」と述べた。

2カ所の新施設では利用者計120人を受け入れる。居室は基本的に個室で、11人が1つの居住棟に住む。短期利用者分も合わせて、2カ所で計12棟を整備するとした。それぞれの定員は、利用者の意向を19年秋ごろまでに確認して判断する。

地域で障害者との共生を目指す障害者総合支援法の理念を重視。意向確認の過程ではグループホームでの生活も体験してもらい、希望すれば地域への移行を支援する。

県は昨年9月、家族会の意向を踏まえて現在地に大規模施設の建て替えを決定したが、障害者団体などから異論が相次いだ。そのため福祉の専門家らでつくる会議が施設の在り方を検討し、8月に複数の小規模施設を整備を提言した。

家族会の大月和真会長は「協力してくれた多くの人たちに感謝したい。再スタートに向

けて全力を尽くす」と話した。〔共同〕

パラ五輪種目・シッティングバレーを学ぼう 21日、伊那で体験会



中日新聞 2017年10月15日
シッティングバレーを楽しむ人たち＝伊那市で

パラリンピック正式種目で、座った姿勢でプレーする「シッティングバレーボール」の体験会が二十一日、伊那市民体育館で開かれる。同種目の全日本男子強化選手らが全国から集まって指導する。障害の有無に関係なく誰でも楽しめるスポーツとして普及を目指しており、参加や見学を広く募っている。

シッティングバレーは尻を床から離さずに競技し、ルールはバレーボールとほぼ同じ。

ネットの高さは男子百十五センチ、女子百五センチ、コートは縦十メートル、横六メートルとバドミントンほどの大きさで、六人制で戦う。

同市では昨年、市総合型地域スポーツクラブの教室として、シッティングバレーチーム「信州ブロックマーケット」が発足。上伊那地域の小学生から五十代までの男女約三十人が所属し、毎週木曜の夜に汗を流している。

チームの発起人は、一九九八年長野パラリンピックのアイススレッジスピードレース銀メダリスト加藤正さん（48）＝同市ますみヶ丘。加藤さんはシッティングバレーの全日本男子強化選手の一人で、二〇二〇年の東京パラリンピック出場を目指している。二十一、二十二日に全日本の合宿が伊那であるのに合わせ、体験会を開くことになった。

加藤さんは「障害者も健常者も一緒に楽しめる『ユニバーサルスポーツ』として伊那に定着させたい。国内最高峰のプレーが見られるのもめったにない機会」と来場を呼び掛けている。

体験会は午前十時から正午まで。全日本選手によるデモンストレーションもある。先着六十人。参加費百円。見学は自由で無料。（問）同クラブ＝0265（73）8573

（岩田忠士）

共生社会実現、問われる政治本気度 法整備で進展も無関心と二極化



福井新聞 2017年10月15日
障害のある人とない人が一緒に活動する事務所で、「いろいろな状態の人が当たり前になる社会になってほしい」と話す五木さん＝福井市内

政府は今年2月、2020年東京五輪・パラリンピックを契機に、障害のある人や高齢者に配慮した共生社会の実現を目指す行動計画を取りまとめた。一方、内閣府が9月末に公表した世論調査によると、障害を理由とした差別や偏見が「ある」と思う人は83・9%に上った。移動や就労など、障害のある人が直面するバリアー（障壁）はまだ高い。衆院選で各党や福井県内候補者の支援施策の訴えは目立たず、政治の本気度が問われている。

友人に誘われて、おしゃれでおいしいと評判の飲食店を訪れた。店の入り口は、階段を8段上がった先。トイレは地下だった。エレベーターやスロープはなかった。

「車いすを使っている人や、目に障害のある人は来ないという前提の店が多い」。障害者自身が運営の中心となり取り組む自立生活センター「コム・サポートプロジェクト」（福井市）の代表、五木留美さん（51）が指摘する。

五木さんは、40代から徐々に歩行が困難になり、杖（つえ）や歩行器、車いすを使うようになった。身体障害者手帳を取ったのは5年前。「人ごとと捉える障害のない人の目線も分かる。無関心の根底に、自分が分からないことには触れないという考えがある」

16年4月に障害者差別解消法が施行され、国や自治体に負担が重すぎない範囲で障害者向けの設備を整えたりサービス提供したりする「合理的配慮」を義務付け、民間事業者にも努力を求めた。環境づくりは着実に進んでいるように見える。

五木さんも、若者が何げなくコンビニのドアを開けてくれるなど、徐々に意識が変わってきていると感じている。

ただ、以前に比べて状況が大幅に改善したとも思えない。「本人や家族に障害がなくても、一生懸命勉強して関わってくれる人はいる。法律など外枠が整ってきたが、まだ社会の中で実感できず、無関心と二極化している」

障害のある人が働く作業所の全国組織「きょうされん」が、加盟事業所を対象に15～16年に行った調査によると、回答した約1万4300人の障害のある人のうち、親やきょうだいと同居している割合が77・2%で、1人暮らしは9・4%にとどまった。年収が「相対的貧困」の目安とされる122万円以下の人は81・6%に上る。200万円以下では98・1%に達し、自立は遠い。

15年度の就労継続支援B型事業所の平均月額賃金は、全国が1万5033円に対し、福井県内は2万796円でトップ。ただ、県障害者福祉計画で目標にしている3万円との開きは大きい。

きょうされん福井支部の毛利敏一支部長は「重い障害があっても1人暮らしできる環境を、経済的にも生活支援的にも整えることが重要。政治家の障害者施策は机上のスローガンばかり」と訴える。

五木さんは「当事者として自分たちの気持ちに敏感になって、粘り強く声を上げていきたい。政治の世界も、障害のある人らさまざまな立場の人がもっと携わるようになれば、変わっていくはず」と期待した。

うつ男性、見つけた居場所 60代、就労訓練半年 「若い人の役に立ちたい」

茨城新聞 2017年10月15日

黙々と作業に取り組む男性=筑西市茂田

長い間、そううつ病に悩む60代男性が茨城県筑西市内の就労支援事業所に通い、半年がたった。退職、引きこもり、自殺未遂…。さまざまな困難に直面した。若者と作業に励む中で「長い社会経験を生かし、若い人の役に立ちたい」と思えるようになった。

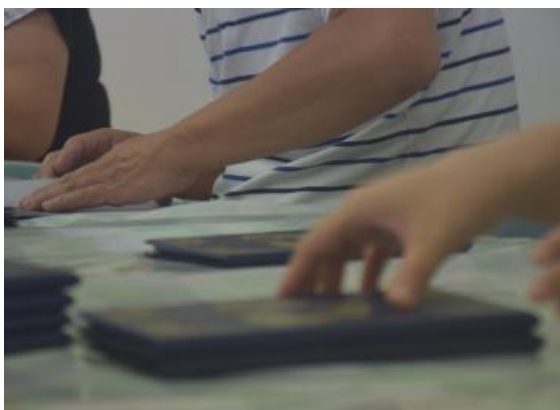
同市茂田の就労支援サービス「イマココ」。精神的に不安を抱えた人が就労訓練を受ける。利用者の大半は引きこもり経験者。30代中心の利用者に囲まれ、男性はアニメグッズを作る軽作業に臨む。

ズを作る軽作業に臨む。

県西地域のアパートで1人暮らしする。つまづいたのは30代。地元の進学校から都内の大学を卒業後、東京で営業職に就いた。バブル崩壊で会社の業績が落ち、自分の成績も苦しくなり、眠れなくなった。

40代半ばで自殺未遂を図り、退職した。妻とも別れた。そこで初めて、そううつ病と診断された。気分の浮き沈みが激しく、現在も精神安定剤が必要だ。

職を転々とし、50代からは生活保護を受給して障害者の入所施設に約10年間、入った。社会復帰に向けて退所したが、アパートで数カ月引きこもった。



3月、行政を通じ、イマココを紹介された。「僕ぐらいの(高い)年齢では受け入れてくれないかも」。不安の中、施設職員が温かく迎えてくれた。「ここからがスタートです」。職員の一言で楽になった。

平日週5日通う。体調不良で休んだのは1日のみ。「社会経験を生かし、仕事の段取りなどを伝えたい。そこに僕の存在意義がある」。自分の居場所を見つけつつある。

将来を考えれば、不安になる。作業に向かう道中、余計な事を考えないように自分に言い聞かせる。「ゆっくり、楽に」 (斉藤明成)

アスペルガーに悩む人が、うまく働く方法 「できる」と「できない」の差を理解しよう

姫野 ケイ：フリーライター

東洋経済 2017年10月15日



自身もアスペルガー症候群で、発達障害カウンセラーの吉濱ツトム氏に聞きます (筆者撮影)

NHK「あさいち」でもたびたび取り上げられ、認知度が上がり始めたアスペルガー症候群。他人とのコミュニケーションに問題があったり、独特な理論やこだわりを持っていることから、「ちょっと変わっている人」と思われることも多い、発達障害の一種である。

一見すると障害があるように見えないので一般社会に溶け込んでいる人が多いが、アスペルガー症候群の症状が出ることで仕事をうまくこなせなかったり、職場の人間関係をうまく築けなかったりして転職を繰り返してしまう人もいる。どうすればアスペルガー症候群でも社会人としてうまくやっていけるのだろうか。

アスペルガー症候群は凹凸障害

自身もアスペルガー症候群であり、発達障害カウンセラーの吉濱ツトム氏は「そもそも、アスペルガー症候群は『凹凸障害』であることはあまり知られていません。適応できる環境とそうでない環境の差が激しいんです」と指摘する。

重度のアスペルガー症候群の人は経理をやりながら電話対応をして、一般事務もして、といった同時並行の業務が苦手だが、異常なほど数字に強かったり、普通の人ならすぐに飽きて音を上げてしまう単純作業を延々とやっていたりする才能があるという。つまり、アスペルガー症候群だからこそ務まる仕事がある。

「日本の企業は終身雇用が前提なので、マルチタスクをこなすゼネラリストにならなければなりません。すべての業務において平均を求められるんです。でも、重度のアスペルガーだとすべてを1度にこなすことが厳しいうえ、できる業務とできない業務とに極端に差が出る。

発達障害の度合いにもよりますが、通常の企業だと苦労してしまうので、ゼネラリストではなくスペシャリストの職種を選ぶとか、専門学校で専門的な分野を学んで専門職として働く、あるいは博打的に自営を試みるのもアリです。また、長期的に務めることを目標とするのではなく、勉強する意味で3~5年とりあえず企業で働いてから自分の適職を探す、という手もあります」(吉濱氏)

ちなみに、テンプル・グランディン ケイト・ダフィー両氏によるとアスペルガー症候群に向いているスペシャリストの仕事としては、建築・工学製図技術者、工芸家、グラフィックアーティスト、ウェブデザイナー、自動車整備士、生物学教師、コンピュータプログラ

マー、エンジニア、物理学者、音楽家、数学教師、科学研究者、ジャーナリスト、翻訳家、会計士、司書、コピーライター・エディター、簿記・記録管理担当者などが挙げられるそうだ。

短期記憶が苦手なのでワーキングメモリーを鍛える

自分に向いている仕事を選ぶことと同時に、アスペルガー症候群の症状を改善する取り組みを徹底的に行う必要もあると吉濱氏。

吉濱 ツトム（よしま つとむ）／発達障害カウンセラー。幼少の頃から自閉症、アスペルガーとして悲惨な人生を歩む。発達障害の知識の習得に組み、あらゆるアスペルガー改善法を研究し、実地に試す。数年後、「典型的な症状」が半減。26歳、社会復帰。同じ障害で悩む人たちが口コミで相談に訪れるようになる。以後、自らの体験を基に知識と方法を体系化し、カウンセラーへ。個人セッションに加え、教育、医療、企業、NPO、公的機関からの相談を受けている（筆者撮影）



「アスペルガーは長期記憶が得意ですが、短期記憶は破綻している人が多いです。コーヒーを淹（い）れるためにヤカンを火にかけ、お湯が沸くまでの間に洗濯物を畳んでおこうとしたら、ヤカンを火にかけていたことを忘れてしまうといったような感じです。

仕事で例えると、部下や別の部署の人に『この仕事はAのやり方をお願いします』と伝えたとしても、その後自分の中で『やはりこの仕事はBのやり方だな』と思ったとすると、先ほどAのやり方をお願いしますと伝えたことを忘れ、Bのやり方をお願いしたと記憶の改ざんが起ることも。

そうすると、部下や他部署の人がAのやり方で仕上げた仕事に対し『Bと言ったのになぜAでやってきた？』とトラブルにつながってしまいます。これは、単純に頭が悪いとかやる気の問題ではないので、ワーキングメモリー（情報を記憶する作業）を鍛えれば改善します」

吉濱氏が推奨するワーキングメモリーの具体的な鍛え方としては大きく3つある。1つ目は「2つ戻りしりとり」。通常のしりとりは、リンゴ→ゴリラ→ラッパ→パイナップル……と続いていくが、2つ戻りしりとりは、リンゴ→ゴリラ→、りんご→ゴリラ→ラッパ、ゴリラ→ラッパ→パイナップル、ラッパ→パイナップル→ルビー……といったふうに、必ず2つ前の単語を言ってから新しい単語を言うようにする。そうすると、短期記憶の力が鍛えられる。

2つ目は、4ケタの数字をひたすら2ケタの数字で引き続けること。たとえば、4923をひたすら17で引いていく。これは前の数字を覚えておかないと難しい。

3つ目は、誰かに文章を1文読んでもらうなり、YouTubeなどで動画を流して途中で止めるなりして、5~10秒後（その間は別の作業や思考を行なう）に同じ文章を復唱すること。最初の文章を自分で読んでしまうと記憶してしまって意味がないので、必ず誰かに読んでもらうか、再生や停止が可能なデバイスを使って行う。

「アスペルガーなのでできません」はダメ

さらに、ワンステップ上の訓練として、ワーキングメモリーの練習をしながらお手玉や料理などをやると、同時並行の機能が鍛えられるという。これは普通の人でも難しいように感じるが、吉濱氏はこのくらいの訓練が必要だと語る。

「アスペルガーは仕事のマニュアルがないとパニックになってしまい、優先順位もわからなくなってしまう。でも、同時並行の世界の中で生きないといけなければ、このときはこれをやる、とルール化して取り組んでいかないとはいけません。

いちばんいけないのは『私、アスペだからできません』と開き直すことです。確かに、どんなに頑張ってもできない面が出てくるのは事実なのですが、それを初めから仕方ないんですと言っちゃうと、その人もいじめに遭うし、周りもイライラしちゃうし、アスペルガーの社会的な印象も下がってしまいます。

だから、『アスペルガーだから苦手な分野もあるけど、一生懸命訓練して克服しようとして

います。すみませんが、少しお待ちを』と言えば評価は上がります」
ワーキングメモリーの訓練のほか、ストレスマネジメントやメタ認知（自分を客観的に見る訓練）、代謝を上げるための有酸素運動も効果的だという。発達障害ではない定型発達の人と比べると、生きづらさを努力でカバーしないといけないため、大変なことが多そうだが、これからの日本はアスペルガーの人は生きやすくなると吉濱氏は指摘する。

「先ほども言ったように、発達障害の場合はスペシャリストが多い。ある程度技術が発達すると、無駄が大事なことになってきます。スペシャリストはこれまでは仕事としては必要なかったことを仕事にできるんです。

たとえば、本来服は外界の刺激から身を守るために着るものですが、実用性がある程度まで達するとデザインを求められます。そうすると、デザイナーという職が生まれますよね。また、アスペルガーは鉄道やゲームなど、自分が興味のあることにおいてはほとんど詳しいです。技術が発達すると、そのエンターテインメントを生かせる社会インフラがより整っていきます。しかも、障害者雇用枠で守られやすいというメリットもあります」

発達障害・アスペルガー症候群は生きづらさの点ばかりがフォーカスされるが、明るい未来が待っている可能性もある。今、アスペルガー症候群の症状のため仕事や社会生活に支障を来して悩んでいる人も、訓練と同時にアスペルガーのとらえ方を変えると、きゅっと締められていた生きづらさの圧が少し緩まるのではないだろうか。

障害者の感性輝く アート作品展示会



山陰中央新報 2017年10月14日

障害者が手掛けたアート作品を鑑賞する来場者

障害者が制作したアート作品の展示会が13日、出雲市駅南町1丁目のビッグハート出雲で始まった。絵画や陶芸品を中心に、国内外から寄せられた力作約500点が、来場者を楽しませている。15日まで。

芸術活動を通して障害者の自立支援に取り組むNPO法人・サポートセンターどりーむ（出雲市東福町、土江和世理事長）が、毎年恒例の

「第7回国際チャレンジドアートエキスポインジャパン」の開幕イベントとして開いた。

出雲、松江両市に住み、同NPOが運営する就労継続支援B型事業所に通っている20～50代の知的、精神障害者23人が、絵画や陶芸品など約300点を出品した。ウミガメやアジサイ、カボチャ、松江城など多彩な題材を、大胆な構図や色の濃淡で表現した独創的な作品が並んでいる。

出雲市出身の錦織良成監督の映画「たたら侍」をPRする神楽面や、鳥取県や東京都、オランダの障害者らの作品も並べた。展示品は販売している。

土江理事長（70）は「作品を通して、美術や音楽の才能を感じてもらいたい」と来場を呼び掛けた。

国際チャレンジドアートエキスポは、14日に県内の障害者による音楽コンサートを、15日に錦織監督による会をいずれもビッグハート出雲で行う。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

